



華麗なる図書館利用者のための

Cool Librari

カール・グラー

講座

カジのうら若き青春黙示録

文ノカジ

「図書室の本が一人歩きしているようです。」

すべての始まりは高校入学直後の全校集会における山形先生（仮名）のこの言葉であった。東北訛りの独特なイントネーションで発せられたその言葉は、中学を卒業したばかりの青き我々にえもいわれぬ衝撃を与えた。

恐らく図書室の本を正しい貸出手続きを経ずに出していく輩に対する警告であることは、弱冠15歳のカジでも当然理解できたのだが、「本が一人歩きしている」という擬人的表現を用いるあたり、いかにも国語教師らしい。ていようかなんかひねくれてない？「図書室の利用方法を守りまじゅう」でいいじゃん。

『青春黙示録』って何ですか？

今から『青春黙示録』と題し、おもしろおかしく過ごしてきた自らの学生時代の思い出話を綴っていく。純然たる思い出話なので何も訴えるものはないが、少しでも面白く感じてもらえば幸いである。ボジとネガの違いはあるが、俺たちは同じ風景のなかを歩いている。ボジとネガ、あるいは本音と建前。ネガを透かして「ネタ切れ」などという文字を決して探すことのないよう。

「来年度は新しい本が増えます☆」

なにっ?!一人歩きじゃないだっ!!

明らかに動揺する生徒たち、したり顔の山形先生。我々はやられたのだ。3年がかりの壮大なドッキリを、ざわつく生徒の中、マイクを離れる彼の表情は清々しさに満ちていた。今は昔のものがたり。

次の全校集会。ひとしきりシナリオを終えた後の連絡事項のコーナーで、山形先生は再びマイクの前に立った：「

「図書室の本が一人歩きしているようです。」

2連チャン!!しかも全く同じフレーズ!我々は耳を疑った。これはデジャブなのか、デジャブに違いない。

さらに次の全校集会。山形先生は果たして再々度マイクの前に立つと：「

「図書室の本が一人歩きしているようです。」

3連チャン!!しかも全く同じフレーズ!我々は試されているのか?

その後も3年間、山形先生は全校集会のたびに所謂「一人歩き節」を展開し、図書室の正しい利用を訴え続けた。このある意味ヒトラー的とも言える刷り込み技法により、「図書室の本は一人歩きするのが当たり前」、「むしろ一人歩きしなければ図書室の本ではない!」ぐらいの感覚を植え付けられていた。

時は流れ、卒業を間近に控えたある冬の日の全校集会。最後の連絡事項のコーナーで山形先生は当然のごとくマイクの前に立つ。映画のエンドロールを観る時ような脱力感を持って、もう聞き飽きた『一人歩き節』をやり過ごす準備をしていた。全校生徒誰も：「

